

世 界 史

(問 題)

2012年度

〈2012 H24061119〉

注 意 事 項

1. 問題冊子は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
2. 問題は2～11ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. 試験開始後、マーク解答用紙の所定欄に氏名を記入すること。
5. マークははっきり記入すること。また、訂正する場合は、消しゴムでていねいに、消し残しがないようよく消すこと（砂消しゴムは使用しないこと）。

マークする時	● 良い	● 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	● 悪い	○ 悪い

6. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

I 以下の問題文を読んで、設問に答えなさい。解答はすべて、その記号をマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

アフリカでは古来より夥しい数の王国や王朝が興亡した。アフリカ最古の黒人王国として知られるクシュ王国は、^①中王国時代よりエジプトの植民地となっていたが、新王国の崩壊後、ナイル川上流域のナパタを都として建国し、やがて前8世紀頃にエジプトに進攻して **A** を築いた。だが、このクシュ王国は前7世紀にアッシリアの攻撃を受け、ナパタに後退を余儀なくされ、前6世紀、エジプト軍の侵入でメロエに都を移した。以後、隊商ルートに位置し、鉄鉱石や樹木が豊富なこの地で、新たにメロエ王国として繁栄し、**B** をもとにしたとされるメロエ文字も発明したが、4世紀、**C** キリスト教を奉じる^②アクスム王国によって滅ぼされた。

アフリカ中西部のニジェール川とセネガル川上流域には、7世紀から8世紀にかけてガーナ王国が誕生し、9世紀頃には、より東側のチャド湖岸に黒人王国のカネム＝ボルヌーが建国された。11世紀末頃からイスラーム化し、^③サハラ縦断交易で栄えた後者は、14世紀に内紛で一時衰えたが、セファワ朝が本拠をチャド湖西岸のボルヌー地方に移して再興した。そして、16世紀末に^④ソンガイ王国が滅亡したのち、西スーダンに展開した。

さらに、アフリカ南東部で^⑤モノモタパ王国が樹立されて2世紀後の13世紀、ニジェール川湾曲地域では **D** によってマリ王国が建国された。マリ王国はイスラーム教を受け入れ、隊商交易の拠点となっていたトンプクトゥを中心に、北アフリカとの交易やメッカ巡礼の経由地として発展した。その最盛期は **E** とマンサ＝スレイマンの時代で、とくに前者はメッカへの巡礼時に数千ともいわれる従者や大量の黄金を持参し、「黄金の国マリ」の名を高めたという。彼はイスラーム文化を積極的に導入し、トンプクトゥに大モスクも建立した。だが、15世紀、この王国はソンガイ王国によって滅亡させられた。

設問X 問題文中、**A** ～ **E** に入れるのにもっとも適切な語句はどれか。

- | | | | | |
|---|-----------------|----------|----------|-----------------|
| A | ① 第22王朝 | ② 第23王朝 | ③ 第24王朝 | ④ 第25王朝 |
| B | ① キリル文字 | ② オガム文字 | ③ ヒエログリフ | ④ 線文字B |
| C | ① パリサイ派 | ② カタリ派 | ③ コプト派 | ④ ネストリウス派 |
| D | ① ベルベル人 | ② クライシュ族 | ③ クルド人 | ④ マンディンゴ（マリンケ）人 |
| E | ① マンサ（カンカン）＝ムーサ | ② サンダキ | | |
| | ③ アブ＝バクル | ④ ムーサ2世 | | |

設問Y 問題文中、下線部①～⑤に関する問いの解答を一つ選びなさい。

- ① エジプト中王国時代に関する説明として、正しいものはどれか。
- a 前21世紀から前19世紀にかけて栄えた王国で、第9王朝がエジプトを再統一して都をテル＝エル＝アマルナにおいた。
 - b 約400枚におよぶ粘土板に楔形文字で記された外交文書、すなわちアマルナ文書はこの中王国時代に作成された。
 - c 第12王朝のラメス（ラメセス）2世は、カデシュでヒッタイトと戦い、その後、現存する最古の国際条約を結んだ。
 - d 官僚制度を整えて中央集権化を進めたが、前18世紀に衰え、滅亡後、アジア系遊牧民のヒクソスがデルタ地帯を支配して、第15王朝を建てた。
- ② アクスム王国に関する説明として、正しいものはどれか。
- a アクスム人がアビシニア高原に建てた王国で、イエメンにも支配を及ぼし、とくに紅海貿易によって栄えた。
 - b モザンビークを中心都市とし、ムスリム商人を介しての香辛料・象牙などの交易や奴隷取引で繁栄した。
 - c この王国はローマやインド各地とも交易を展開したが、11世紀、ザンギー朝に滅ぼされた。
 - d この王国で商業に用いられたバントゥー語は、アラビア語とスワヒリ語が混ざり合っできた言語である。

- ③ ガーナ王国に関する説明として、誤っているものはどれか。
- a サハラの縦断交易で栄えた王国で、その交易ではラクダが重要な役割を担った。
 - b この王国で開発された製鉄法は、アフリカ内陸部の製鉄技術の源流となった。
 - c ムスリム商人を仲介とする交易では、サハラの岩塩と西アフリカの金や象牙などが交換された。
 - d サハラで興って勢力を拡大したムスリムのムラービト朝から攻撃を受け、11世紀に衰退した。
- ④ ソンガイ王国に関する説明として、誤っているものはどれか。
- a ソンガイ族は当初ニジェール川中流域に小王国を築いていたが、のちに統一国家を建設した。
 - b アスキア王はイスラーム法による中央集権制を確立し、アラブ人学者も招聘した。
 - c この王国は西アフリカの隊商都市を数多く傘下におさめ、その都ガオは内陸交易、とくにサハラ交易で栄えた。
 - d この王国を滅ぼしたモロッコのトゥールーン朝は、以後、アフリカ北西部を支配下におさめて、強大なイスラーム国家を建設した。
- ⑤ モノモタパ王国に関する説明として、正しいものはどれか。
- a この王国は、バントゥー系のショナ族などを中心とする部族連合王国で、ザンベジ川以北を主たる支配地域とした。
 - b 鉱山資源とインド洋交易で繁栄したこの王国は、早い時期からフランスとの関係を深めていたが、18世紀、ポルトガルの圧迫を受けて滅んだ。
 - c 王国の首都が置かれていたモンバサ遺跡の出土品は、この王国が遠く中国やインドとも直接的ないし間接的な交流があったことを示している。
 - d モノモタパ王国後期はマンボ王国とも呼ばれ、その中心的な勢力はロズウィ族だった。

II

次の1～3の文章を読み、設問X・Yに答えなさい。

- 1 前漢王朝の外戚として権力を掌握した王莽は、事実上前漢の最後の皇帝となった（ 1 ）を追放して皇帝に即位し、新を建国した。新は、^①儒教經典に記された周王朝の政治を理想とする、時代錯誤で非現実的な政策を推し進めたため大きな混乱が生じ、やがて民衆を主体とする反乱が各地におこって滅亡した。この新末の戦乱に乗じて勢力を拡大した漢室の一員劉秀は、中国の再統一をなしとげて漢を復活させた。この王朝は前漢の諸制度をはほぼ受けつぎ、また各地の諸豪族に依拠したため、安定した政権が維持された。しかし中央政界に進出した豪族が権力をにぎると、これと対抗する官廷の宦官勢力としばしば争ったため政治が乱れた。
- 2 趙匡胤は、唐末から五代十国の時代に混乱をきわめた中国の主要部を統一して宋を建国した。この王朝は、科挙の制度を整備して積極的に文人官僚を登用する文治主義を推進するとともに、地方に割拠して中央の統制から独立する傾向を示した（ 2 ）の勢力を削いで皇帝に直属する禁軍を強化し、皇帝が独裁をおこなう中央集権的官僚制国家の確立をめざした。しかし、地方の軍勢力を弱体化させたことから、遼や西夏など周辺諸国の侵攻をまねいて守勢にまわることが多くなり、また、文官の経費や和平維持のために国費がかさんで、深刻な財政難をまねいた。このため王安石の新法が導入されることとなった。
- 3 1934年、蒋介石の攻撃によって中国共産党が根拠地とした（ 3 ）が陥落すると、共産党軍は西方に向けて移動を開始し、陝西および甘肅地方に拠点を移した。のちに長征とよばれるこの西遷途上で開かれた幹部会議において、毛沢東は共産党中央の指導権を確立した。1935年、共産党が全国民に向けて内戦停止と民族統一戦線の結成を呼びかける八・一宣言をおこなうと、これに呼応した張学良は、楊虎城とはかつて督戦のため陝西省を訪れた蒋介石を監禁して内戦停止を説得する西安事件をおこした。これに対して、^⑤共産党は幹部を派遣して蒋介石への協力を約束し、これによって第2次国共合作への道が開かれることとなった。^⑥

設問X 空欄（ 1 ）～（ 3 ）に入れるのに最も適切な語をa～eのなかから一つ選び、その符号をマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

- | | | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|
| (1) a 劉裕 | b 劉嬰 | c 劉邦 | d 劉備 | e 劉淵 |
| (2) a 節度使 | b 都護府 | c 市舶司 | d 都督府 | e 折衝府 |
| (3) a 巴西 | b 延安 | c 海豊 | d 瑞金 | e 遵義 |

設問Y 下線部①～⑥に関する設問について、最も適切な解答を(ア)～(オ)のなかから一つ選び、その符号をマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

- ① 儒教およびその經典に関する説明として誤りを含むものはどれか。
 - (ア) その根本的な經典である五經は、『易經』・『書經』・『詩經』・『礼記』・『春秋』をさす。
 - (イ) 後漢王朝の儒者である劉向および鄭玄は、儒教經典の整理やその注釈をおこなう訓詁学を確立した。
 - (ウ) 唐の太宗に仕えた孔穎達は、五經の注釈書である『五經正義』を編纂し、經典解釈の統一をはかった。
 - (エ) 宋学とよばれる宋代の儒学は、周敦頤にはじまり、程顥・程頤に受け継がれ、朱熹が大成した。
 - (オ) 明の永楽帝は『大学』・『中庸』・『論語』・『孟子』の注釈書である『四書大全』を編纂させた。
- ② 中国史上の主要な反乱に関する説明として正しいものはどれか。
 - (ア) 陳勝・呉広の乱は秦帝国を揺るがす大反乱で、陳勝の臣下であった項羽は、のちに漢の高祖と天下を争った。
 - (イ) 黄巾の乱は、後漢末に、張角が創始した五斗米道系の宗教結社に率いられた農民を主力とする反乱である。
 - (ウ) 孫恩・盧循の乱は、東晋末におこった天師道系の宗教反乱で、海島に拠点を置き、船団を組んで建康を攻撃した。
 - (エ) 紅巾の乱は、元朝を崩壊させた農民反乱で、その指導者であった朱元璋は、明を建国して北京に首都を置いた。
 - (オ) 白蓮教徒の乱は、乾隆帝の治世前期におこった仏教系宗教結社が指導する農民反乱で、清の弱体化を露呈させた。

③ この時代の説明として正しいものはどれか。

- (ア) 黄巢の乱の武将でのち唐に帰順した朱全忠が建国した後梁は、唐代に東都とよばれた洛陽に都を置いた。
- (イ) 金陵(南京)に都を置いた南唐は、江南の主要部を支配し、その宮廷では唐風の貴族文化がさかえた。
- (ウ) 女真族出身の武将が建国した後晋は、契丹から軍事的な援助を得るために燕雲十六州を割譲した。
- (エ) 西府(杭州)に都を置いた呉越は、日本の平氏政権と国交を結んで交易をおこない、人と物とが交流した。
- (オ) トルコ系の遊牧騎馬民族出身の武将が建国した後唐は、黄河中流域における交通拠点の汴州に都を置いた。

④ この二国に関する説明として正しいものはどれか。

- (ア) モンゴル系党項族の李元昊が建国した西夏は、宋と慶暦の和約を結んで、銀・絹・茶などの歳賜を受けた。
- (イ) 西夏は、東西交通路の要地である興慶(ペラサゲン)に都を置き、中継貿易によって大いに栄えた。
- (ウ) 遼の初代皇帝とされる耶律阿保機は契丹族を統一して建国し、高麗の都である開城に遠征したのち陣没した。
- (エ) 遼は、遊牧民には部族制によって統治する北面官、農耕民には州県制によって統治する南面官を設置した。
- (オ) 遼が滅亡する直前、その王族の一人である耶律大石は中央アジアに移って西遼(カラ=ハン)を建国した。

⑤ 張学良およびその父親である張作霖に関する説明として誤りを含むものはどれか。

- (ア) 張作霖は、日露戦争ののち日本の支援のもとで満州を制圧し、奉天(瀋陽)に本拠地を置いた。
- (イ) 1928年、北京を支配していた張作霖は蒋介石の北伐軍に敗北し、奉天に引き上げる途上で爆殺された。
- (ウ) 当時の日本では、関東軍が張作霖爆殺事件をおこしたことは極秘とされ、「満州某重大事件」として報道された。
- (エ) 張作霖の後継者となった張学良は、蒋介石の国民政府に合流し、満州における日本の利権の回収をめざした。
- (オ) 第2次国共合作後、蒋介石に逮捕された張学良は、国共内戦が終結すると蒋介石から逃れて香港に亡命した。

⑥ 西安事件に際して共産党が派遣した幹部に関する説明はどれか。

- (ア) その人物は、大躍進政策の失敗を克服するため国家主席となって調整政策を進めたが、批判されて獄死した。
- (イ) その人物は、1954年にインド首相ネルーと会談し、外交上の原則をまとめた「平和五原則」を共同で宣言した。
- (ウ) その人物は、首相や共産党総書記を歴任したが、1989年の天安門事件の責任を追及されて、失脚した。
- (エ) その人物は、抗日戦争や朝鮮戦争で活躍し、一時は毛沢東の後継者に選ばれたが、1971年に失脚し、死亡した。
- (オ) その人物は、毛沢東の死後に共産党の最高実力者となり、四つの現代化政策や経済開放政策を展開した。

Ⅲ

ヨーロッパの古代・中世世界における「危機」に関する次の文章1・2を読み、下の設問X・Yに答えなさい。

- 1 ローマ帝国は、紀元後1世紀の **A** 帝から2世紀末のマルクス=アウレリウス=アントニヌス帝にいたる五賢帝の時代に最盛期を迎え、この時期に最大版図に達したと言われる。しかし、後2世紀末から3世紀にかけては、いわゆる「3世紀の危機」と呼ばれる状況に陥った。とくに235年のマクシミヌス帝の即位以降、ディオクレティアヌス帝が即位するまでの約50年間は、各地の軍団によって擁立された諸皇帝があいついで帝位について争い、一般的に「軍人皇帝時代」という、混乱期を迎えた。また北方からはゲルマン民族がしばしば国境を侵し、東方からはササン朝の侵略によって帝国の荒廃が一層進んだ。この3世紀は西洋古代社会の大きな転換点ともなっている。帝政のあり方や奴隷制などが変化し、キリスト教などの新しい宗教が古来の宗教にかわって信者を獲得するようになり、帝国支配が崩壊へと一気に向かっていった。
- 2 ヨーロッパの14・15世紀は、一般的に「封建制の危機」の時代と言われる。中世以来の封建制度や荘園制がゆきづまりをみせるようになり、領主層が没落していった。13世紀末ごろまでのヨーロッパは、比較的④に温暖な気候がつづき、人口が増大して経済は活況を呈していたが、14世紀初めごろの天候不順によって穀物価格が高騰し、ヨーロッパ各地に飢饉などが広がった。さらに、**B** 年を頂点とした黒死病（ペスト）の大流行による人口の激減で経済は疲弊し、イギリスで **C** の乱と呼ばれる農民反乱が起こるなど、都市や農村では一揆や暴動が頻発した。この時期には、イギリス・フランス間では百年戦争が勃発し、⑤長期にわたる戦乱の結果、それぞれが大きな変革を遂げることとなった。また、⑥ドイツ・イタリアやその他の地域でも政治・経済・社会・文化上の新しい運動や革新的な流れがうまれ、ヨーロッパは中世社会が崩壊して近世社会へと移行していった。

設問X 文中の空欄 **A** ～ **C** に入る最も適切な語を、a～dの中から一つ選び、その記号を所定欄にマークしなさい。

- | | | | | |
|---|--------------|----------------|----------|--------|
| A | a アントニヌス=ピウス | b トラヤヌス | c ハドリアヌス | d ネルウァ |
| B | a 1328 | b 1338 | c 1348 | d 1358 |
| C | a ジャックリー | b ウィクリフ | | |
| | c ワット=タイラー | d シモン=ド=モンフォール | | |

設問Y 文中の下線部①～⑥に関する次の問いについて、最も適切な解答をa～dの中から一つ選び、その記号を所定欄にマークしなさい。

- ① デイオクレティアヌス帝に関して述べた次の文の中で、誤っているものはどれか。
- デイオクレティアヌス帝は、後4世紀初めに、キリスト教徒に対する最後の大迫害を行った。
 - デイオクレティアヌス帝は、首都をニコメディアに移した。
 - デイオクレティアヌス帝は、2正帝と2副帝に分けて帝国を四分統治し、自らは西方正帝となった。
 - デイオクレティアヌス帝は、ドミヌスと称し、ここからドミナトゥスとよばれる専制君主政が始まった。
- ② ササン朝について述べた次の文の中で、誤っているものはどれか。
- 初代の王アルダシール1世は、3世紀にバクトリアを滅ぼして、ササン朝を建国した。
 - 2代目の王シャープール1世は、東方のクシャナ朝を破った。
 - ホスロー1世は、東ローマ帝国のユスティニアヌス帝との戦いを有利に進め、突厥と同盟しエフタルを滅ぼした。
 - ササン朝は、7世紀のニハーヴァンドの戦いで、イスラーム軍に敗れ、まもなく滅亡した。

- ③ 古代ローマ時代の奴隷や奴隷制について述べた次の文の中で、誤っているものはどれか。
- a 前2世紀後半に、シチリア島で大規模な奴隷反乱が起き、その後、前2世紀末にも再発した。
 - b 後1世紀に、トラキア出身の剣奴スパルタクスが指導した大奴隷反乱が起きたが、鎮圧された。
 - c 共和政ローマでは、ラティフンディア（ラティフンディウム）とよばれる、奴隷使用にもとづく大土地経営が発展した。
 - d 帝政ローマ末期では、コロヌスとよばれる隷属的な小作人を使用する土地経営が発達した。
- ④ 14世紀以降のヨーロッパの封建制度や領主制の変化に関連して述べた次の文の中で、誤っているものはどれか。
- a 西ヨーロッパでは、農奴が納める地代が労働地代から生産物地代・貨幣地代へと移行することで、農奴の身分解放が進んだ。
 - b イギリスでは、農奴身分から脱した農民は、ジェントリとよばれる独立自営農民となった。
 - c 貨幣経済の進展により窮乏した領主階級は、農民への支配と搾取を再強化する封建反動とよばれる行動をとった。
 - d 東ヨーロッパでは、地主貴族が主に輸出用の穀物を生産するために、グーツヘルシャフトとよばれる大農場経営を行うようになった。
- ⑤ 百年戦争中におきた事件や事象などが、古いものから年代順に正しく並んでいるものはどれか。
- a シャルル7世即位 → ポワティエの戦い → ジャンヌ＝ダルクの処刑 → クレシーの戦い
 - b ポワティエの戦い → シャルル7世即位 → クレシーの戦い → ジャンヌ＝ダルクの処刑
 - c ジャンヌ＝ダルクの処刑 → クレシーの戦い → ポワティエの戦い → シャルル7世即位
 - d クレシーの戦い → ポワティエの戦い → シャルル7世即位 → ジャンヌ＝ダルクの処刑
- ⑥ 14・15世紀のドイツ・イタリアやその他の地域でおきた、政治・経済・社会・文化上の新しい運動や革新的な流れについて述べた次の文の中で、誤っているものはどれか。
- a 神聖ローマ皇帝カール4世は、金印勅書を発令し、皇帝選出権を7人の選帝侯がもつことを承認した。
 - b 神聖ローマ皇帝ジギスムントにより、コンスタンツ公会議が招集されたが、教会大分裂は解消しなかった。
 - c ベーメン（ボヘミア）のフスはカトリック教会の改革を唱えたが、異端とされ、火刑に処せられた。
 - d ダンテは14世紀初めに、トスカナ語で『神曲』を著し、ルネサンス文学の先駆者となった。

IV

次の文章を読み、設問X・Yに答えなさい。

ユーラシア大陸の中央部には東から西に、モンゴル高原、アルタイ山麓、カザフ草原、南ロシア草原、パンノニア平原まで、ステップ地帯が連なっている。またその南側には、やはり東から西にゴビ、タクラマカン、キジルクーム、カラクームの砂漠地帯が広がり、そのなかにオアシスが散在している。

ステップ地帯では前9～前8世紀ごろに青銅製の馬具や武器をもった騎馬遊牧民が登場するが、文献史料のうえで知られる最初の遊牧国家は（ A ）であり、前6世紀ごろ南ロシア草原を支配し、ギリシア植民市とも交易して栄えた。その影響を受け、モンゴル高原で活躍したのが匈奴である。前3世紀ごろ、単于に統率されて国家を形成し、前2世紀になると近隣の東胡^①や月氏などをうち、さらにタクラマカン砂漠がひろがるタリム盆地を支配下に置いた。

匈奴がおとろえたあと、後2世紀には鮮卑がモンゴル高原の覇権を握った。鮮卑は匈奴の残存勢力など、ステップ地帯東部の諸勢力をまとめ、大勢力となったが、その王国は分裂を重ね、やがて南下して五胡の一部となり、華北に定着した。

オアシスでは前10世紀ごろになるとカナートを掘削する技術が開発されて農耕が可能となり、中央アジアやタリム盆地にイラン系のソグド人が移住してきて、（ B ）やブハラなどのオアシス都市をつくった。それらのオアシス都市の間では隊商交易が発達し、ソグド商人などが物資を東西に運ぶ、オアシス＝ルート^②が形成された。

鮮卑の勢力が南下したのちのモンゴル高原では、後5世紀中ごろに柔然が勃興して、（ C ）などの草原地帯東部の諸勢力をまとめた。柔然はステップ地帯をおさえるとともに、タリム盆地を支配して、オアシス＝ルートの東半分も支配下に置いた。柔然の君主ははじめて「ハガン」を称したが、その後、これが変化した「ハン」^③は、騎馬遊牧民国家の君主の称号となった。

ステップ地帯の西部であるカザフスタンからウクライナにかけての地域で遊牧生活をしていたフン族は、4世紀、西に向かって移動を開始し、これはゲルマン人の大移動の引き金となった。フン族の最盛期をすぎた（ D ）の死後、その王国は分裂を重ねて弱体化し、フン族は（ E ）人やブルガール人に吸収されていった。

（ E ）人は5世紀中ごろからカザフ草原で活躍をはじめ、6世紀には突厥^④に圧迫されて西にすすみ、パンノニア平原に本拠を構えて、しばしば東ローマ帝国領や西ヨーロッパに進出した。

6世紀以降のステップ地帯では、主としてトルコ系の諸民族が活躍する。6世紀中ごろ、突厥が勢力を強め、さらに8世紀ごろから突厥にかわったトルコ系のウイグル人は、ソグド人の協力をえて、豊かな遊牧国家を建設したが、9世紀には同じトルコ系のキルギスの攻撃を受けて滅んだ。ウイグル人の国家が崩壊すると、トルコ系の遊牧民は天山山脈の南側や中央アジアのオアシス都市へと移住し、その地をトルコ化していった。以後、この地はトルキスタン^⑤と呼ばれるようになった。

設問X 文中の空欄（ A ）～（ E ）に入る最も適切な語を一つ選び、その記号をマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

- | | | | |
|-------------|----------|----------|---------|
| (A) a フルリ | b ナイマン | c カルディア | d スキタイ |
| (B) a カナウジ | b サマルカンド | c ウガリト | d サライ |
| (C) a 高車 | b 吐蕃 | c 大理 | d 靺鞨 |
| (D) a アッティラ | b カレル | c テオドリック | d エグバート |
| (E) a シャン | b フィン | c デーン | d アヴァール |

設問 Y 文中の下線部 ①～⑤ に関する下記の設問について、最も適切な解答を一つ選び、その記号をマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

- ① 東胡についての説明として正しいものはどれか。
- a 前4～前2世紀ごろ、主にアルタイ山麓を中心としたステップ地帯で活動した遊牧民族である。
 - b 前4世紀末の張騫の西域遠征によってその存在が中国に知られるようになった。
 - c 戦国時代末以降、しばしば中国に侵入したが、前漢の武帝による攻撃と内紛によって分裂し弱体化した。
 - d 匈奴の冒頓単于の攻撃によって滅亡したが、その後登場する烏桓や鮮卑はその後裔と考えられている。
- ② オアシス＝ルートを通して中国にもたらされた宗教の一つが仏教である。オアシス＝ルートと仏教の関係についての説明として誤りを含むものはどれか。
- a 甘肅省西端のオアシス都市敦煌には、4世紀以降、莫高窟と呼ばれる石窟寺院が建造された。
 - b タリム盆地北辺のオアシス都市クチャでは仏教文化が栄え、石窟寺院が建造された。
 - c クチャ出身の僧鳩摩羅什は、インドで仏教を修めたのち、隋の煬帝に迎えられて中国に至り、涼州や長安で仏典の漢訳と講説に努めた。
 - d 唐の僧玄奘は、オアシス＝ルートの諸都市を経由してインドに赴き、ナーランダ僧院で学んだのち、多くの経典・仏像を携えて帰国した。
- ③ つぎの人物のなかで「ハン」を称さなかったのは誰か。
- a ガザン b エセン c ヌルハチ d ソンツェン＝ガンボ
- ④ 突厥では突厥文字とよばれる独自の文字が使用された。突厥文字などステップ地帯を中心に使用された文字の説明として誤りを含むものはどれか。
- a 突厥文字は騎馬遊牧民最初期の文字であるが、オルホン川付近で発見されたオルホン碑文により解読された。
 - b ウイグル文字は、アラム文字を起源とするソグド文字に由来し、トルキスタンからさらに東方に広がった。
 - c パスバ文字は、パスバがチンギス＝ハンの命でチベット文字をもとに作成し、公文書に使用されたが、一般には普及しなかった。
 - d モンゴル文字はウイグル文字を母体にして作成され、満州文字を派生させた。
- ⑤ 18～19世紀におけるトルキスタンに関することがらが年代順に正しく並んでいるものはどれか。
- a ロシアがコーカンド＝ハン国を併合 → ロシア・清がイリ条約を締結 → 清が東トルキスタンを占領
 - b ロシアがコーカンド＝ハン国を併合 → 清が東トルキスタンを占領 → ロシア・清がイリ条約を締結
 - c 清が東トルキスタンを占領 → ロシアがコーカンド＝ハン国を併合 → ロシア・清がイリ条約を締結
 - d ロシア・清がイリ条約を締結 → 清が東トルキスタンを占領 → ロシアがコーカンド＝ハン国を併合

V

下の文を読み、設問X・Yに答えなさい。解答はすべて、その記号をマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

1517年にドイツでルターによる宗教改革が始まって15年あまり後、イギリスでは、国王ヘンリ8世がローマ＝カトリック教会から離反する姿勢を明らかにし、イギリス国教会体制への移行が始まった①。1603年、(A)がイングランド王位を継承すると、徐々に国王と議会との対立が深まり、ついには清教徒革命に至った②。1660年の王政復古後、国王(B)はカトリック容認の姿勢を強め、議会はこれに激しく反発していたが、(B)の王弟が即位して後の1688年、名誉革命が起こった③。

イギリスの議会は、このころから立法府としての機能を活性化させ、今日の政党の前身となる二つの党派も誕生した④。18世紀、(C)が王位を継承すると、議会の力はさらに強くなった。

イギリスは18世紀、産業革命に成功し、19世紀には世界帝国として繁栄した。この間、イギリス国内では徐々に身分や信教による差別の撤廃が進んだ⑤。1830年ごろには保守党が誕生し、1859年には自由党が結成され、やがて政策論争によって双方が政権を争う、二大政党制が確立された。

1906年、労働者の生活向上を掲げて労働党が議会に登場した。労働党は第一次世界大戦以降、自由党に代わり、二大政党制の一翼を担うようになった。第二次世界大戦後「ゆりかごから墓場まで」と言われた手厚い社会保障制度を確立したのは労働党政権であるが、この制度は後に「イギリス病」の元凶の一つとして批判の対象となった。

疲弊したイギリス社会を強力な新保守主義的手法で改革し、新たな繁栄に導いたのは、サッチャー率いる保守党政権⑥であったが、その行き過ぎを正す、として「第三の道」を唱えて登場し、受け入れられたのは労働党のブレアであった。イギリスでは、近年までこうして二大政党制による政権交代が繰り返されてきた。しかし、2010年に行われた総選挙では、単独過半数を獲得する政党がなく、保守党と自由党が連立で政権を担当することになった。

設問X 文中の(A)～(C)にあてはまる語を、a～dから一つ選びなさい。

- | | | | | | | | |
|-------|---------|---|---------|---|---------|---|------------|
| (A) a | テューダー家 | b | ステュアート家 | c | ランカスター家 | d | ヨーク家 |
| (B) a | ジェームズ1世 | b | ジェームズ2世 | c | チャールズ1世 | d | チャールズ2世 |
| (C) a | ザクセン家 | b | ナッサウ家 | c | ハノーヴァー家 | d | コーブルク＝ゴータ家 |

設問Y 文中の下線部①～⑥について、以下の問いに答えなさい。

- ① イギリス国教会体制への移行期についての記述として、誤っているものを一つ選びなさい。
- ヘンリ8世がローマ教皇と対立した直接の原因は、自らの離婚問題だった。
 - 1534年に制定された国王至上法（首長法）により、国王はイギリス国教会の唯一最高の首長とされた。
 - ヘンリ8世の長女メアリは熱心な福音派（ルター派）の信者で、そのためイギリス国教会は一時、教義上の混乱をきたした。
 - 1536年および1539年に行われた議会立法により、国内大半の修道院が閉鎖され、その財産は没収された。
- ② 清教徒革命およびその前後の時期についての記述として、誤っているものを一つ選びなさい。
- 王権神授説を唱える国王に対して、議会は税や財産・人身保護に関する人民の権利も世襲されることを主張する、権利の宣言を提出した。
 - 新たな王家はスコットランド王でもあり、これによりイングランドとスコットランドは同君連合の関係となった。
 - 1640年4月、スコットランドでの反乱に対応するための増税を求めて、国王は議회를招集したが、議会は王の意に従わず、3週間余りで解散された。
 - 議会の独立派指導者クロムウェルは、軍事にも優れ、鉄騎隊を組織して王党軍を破り、革命を成功させた。

- ③ 名誉革命およびその前後の時期についての記述として、誤っているものを一つ選びなさい。
- a クロムウェル時代に解散された議会は王政復古とともに再開され、絶対王政への復帰を目指す国王と対立することになった。
 - b 人身保護法は法によらない逮捕・裁判を禁じるもので、国王の専制を封じるため、1679年に議会在が制定した。
 - c 国王と厳しく対立するようになった議会は、国王の娘アンと結婚していたオランダ総督ウィレムを招き、ウィリアム3世として即位させた。
 - d 1689年、議会は「権利の章典」・「寛容法」などを制定し、名誉革命体制の枠組みを定めた。
- ④ この二つの党派に関わるできごとの説明として、誤っているものを一つ選びなさい。
- a 1670年ごろには、王位継承権問題の議論をきっかけに、議会にトーリ党とホイッグ党と呼ばれる党派が誕生していた。
 - b イギリスの責任内閣制は1742年に始まったとされるが、それは、トーリ党出身の首相ウォルポールが議院内多数を失った時、自らに対する国王の支持にもかかわらず、首相を辞任したことによる。
 - c 1783年、トーリ党のウィリアム＝ピットは、国王の支持で首相となり、翌年の選挙で勝利し、以後ほぼ20年にわたって政権を担った。
 - d 自由党を立ち上げたのは、ホイッグ党、旧保守党の自由貿易派、ならびに自由放任と自由貿易を主張する急進主義者たちであった。
- ⑤ このことに関わる状況の記述として、誤っているものを一つ選びなさい。
- a 1824年、団結禁止法が廃止され、労働組合運動も合法化された。
 - b 1828年に審査法が廃止されたが、これは、カトリック教徒を含め、すべての非国教徒を対象とするものであった。
 - c 1832年の選挙法改正によって、中産階級にまで選挙権が拡大された。
 - d 1807年、奴隷貿易を禁止したのに続き、1833年にはイギリス帝国全土で奴隷制度が廃止された。
- ⑥ 以下のうち、サッチャー政権時代に起こったことがらではないものを一つ選びなさい。
- a イギリスのリヴァプールから出て、世界的人気グループとなったロックバンド、ビートルズが解散した。
 - b イギリスから一方的に独立して、アパルトヘイトを維持しようとしていた南ローデシアの白人政権が解消され、国際的に承認された黒人多数派支配体制のジンバブエ共和国が成立した。
 - c イギリスはフォークランド諸島の領有権を巡って、アルゼンチンと戦争となり、この戦いに勝利した。
 - d イギリスは、EC（現EU）加盟各国の通貨統合を前進させるための欧州通貨制度に加入した。

〔以下余白〕

